

富 噴井



《噴井》

画:小林功氏

北ノ窪子ども風土記

令和7年9月4日

小田原市立富水小学校

校長 鈴木 一彦

「暑さに負けず、元気に登校！」

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。久しぶりに友だちと会えて、笑顔いっぱいの登校風景が見られて嬉しいですね。

今年の夏はとても暑く、9月に入ってもまだまだ厳しい暑さが続く予報です。登下校時の熱中症が心配される中、地域の方々の見守りや、保護者の皆さまの付き添いなど、たくさんのご協力をいただきありがとうございます。子どもたちも水筒をしっかりと持ち、様々な冷感グッズを活用するなど、工夫を凝らしながら元気に歩いています。

学校周辺の道路は大変狭く、交通量の多い道路です。登下校中の児童の安全が保たれるよう、車で周辺道路を走行したり駐停車したりする際は、ちょっとしたご配慮をいただけるととても助かります。

みんなで協力しながら、子どもたちが安心して元気に過ごせるよう、引き続き熱中症対策へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします



「すべての子どもたちが安心して学べる学校をめざして」

小田原市では、支援教育の理念のもと、すべての子どもが同じ場で学び合い、ともに育ち合うことを大切にした「インクルーシブ教育」を推進しています。これは、共生社会の実現に向けて、多様な子どもたちが互いを認め合いながら学ぶことを通して、教育の機会均等を図る取り組みです。

小田原市のインクルーシブ教育の考え方は、「その時点での教育的ニーズに最も的確に応える学びの場を、一人ひとりに配慮すること」にあります。すべての子どもが安心して学び、成長できる環境を整えることで、「多様性を認め合い、協働する力」「人格と個性を尊重し支え合う力」が育まれていきます。

本校でもこれまで、「学びの機会を平等にするための合理的配慮の意識」「並び順やロッカー、机、作品、名簿などを共通にすることでの仲間

意識の醸成」「すべての教師が主体的に関わる交流・共同学習の推進」「子どもを中心とした支援の輪をつくる信頼関係の構築」など、インクルーシブな学校づくりを進めてきました。

今年度も、教育相談コーディネーターを中心に、子ども一人ひとりの状況に寄り添いながら、必要な支援を必要ときに届けられるよう、

小田原のインクルーシブ教育

～個性や多様性を認め、伸ばす教育～

本質的な視点

神奈川県が目指すこと
支援教育の理念のもと、
共生社会の実現に向け、すべての子どもが、同じ場で共に学び共に育つこと

支援教育の理念
多様な子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに、適切に対応すること

みんなで学ぶ

多様な子どもたちが
同じ場で学び合う学校

その時点での教育的ニーズに
最も的確に応える 学びの場

特別支援学校 特別支援学級 通常の学級 通級指導教室 教育相談指導学級 校内支援室

少人数で学ぶ

個別で学ぶ

- ①授業内容がわかるか
 - ②学習活動に参加している
充実感・達成感をもてるか
 - ③充実した時間を過ごせるか
 - ④生きる力を身につけていけるか
- ※これらの視点から、その学びの場での目的をもちます
※授業以外でも、様々な場面で共に学ぶことができます

保護者の皆様と連携しながら取り組んでまいります。

何か気になることやご相談がありましたら、まずは担任までご連絡ください。支援の内容に応じて、教育相談コーディネーターが窓口となり、お話をうかがいます。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりのために、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「木のぬくもりに包まれて」

この夏休み中、学校では「木質化」の工事が進められ、教室の壁や廊下の柱、昇降口などが、小田原産の木材を使って美しく生まれ変わりました。木のぬくもりに包まれた空間は、子どもたちにとっても落ち着きと安心感を与えてくれるようで、登校初日「わあー、すごい」といった声も聞こえてきました。

現在はまだ工事中で、これからホールや廊下の踊り場などの木質化が進められる予定です。9月いっぱいにはすべての工事が完了し、学校全体がより温かみのある、心地よい空間へと整えられていきます。

朝会では、この新しくきれいになった学校をみんなで大切にしていこうという話をしました。具体的には、整理整頓の習慣を身につけること、特にトイレのサンダルや下駄箱の靴をきちんと揃えること。そして「心の整理整頓」として、あいさつをしっかりとすること、落ち着いて行動すること、廊下などでは走らず静かに歩くことなどを子どもたちに伝えました。

こうした姿勢は、学校だけでなく家庭や地域でも大切にしていきたいものです。ぜひご家庭でも、お子さんと一緒に「きれいな学校をみんなで守ること」について話していただけたら嬉しいです。

